

## 9月度「共通講座」活動記録

記録者：2班 大地

実施日：2023年9月1日（水） 天候：晴れ

場所：福島区民センター ホール

参加者：18人（1班6人 2班6人 3班6人）

共通講座：10:00～12:00

テーマ：「源氏物語」に登場する植物 その2—そのとき、紫式部の観察眼は—

講師：松谷 茂 先生（京都府立植物園名誉園長・京都府立大学客員教授）

内容：2019.08.02 の講座「その1」で触れられた第1帖～第10帖に出てくる植物に再度触れられた後、「カツラ＝桂」「タチバナ＝橘」「シノブ＝忍」「ヨモギ＝蓬」など、第11帖以降の植物について、写真等を使いながら、お話ししていただいた。「オニグルミ＝鬼胡桃」の花の写真は美しかった。また、「ツゲ＝黄楊木」で、櫛などに利用される「ツゲ」は、ツゲ科・対生葉序、「イヌツゲ」はモチノキ科・互生葉序で見分けることができるとのこと、参考になった。「ヒカゲノカヅラ」は郷里の山麓に生えていて、小学生のころ「狐の襟巻」と言い、正式な名前は知らなかった。

紫式部は「ヨモギ」や「シノブ」などで、「住まいのわびれた様子、荒廃、朽ちた家屋などを描写している、花や実だけを見ているだけでなく、わずかな香りを感じたり、茎や葉、根までも鋭く鑑察していたのであろう」、「その植物を、その鋭い観察力・洞察力によって、文脈、特にヒロインになぞらえて表現していることに、紫式部の超天才性を感じます」との話だった。

「源氏物語」原文では私には歯が立たないので、現代語訳で読んでみたい気持ちになった。なお、猛暑が続く中なので、午後の活動はなかった。

		
講師：松谷教授	〃	タイトル(源氏物語……)
		
胡桃の雌花序	聴講風景	〃